



創作実験劇場 2017年3月18日(土) 17時開演 灘区民ホール

出品作品 梅・幻想 破れた世界で 土を破る うまれたことのない風 白き畝下に それでも、帰ります 地～昇・聴・感～
カミサマナンテイナイ 沈黙を破って—正延正俊氏の絵に触発されて
百人一首への挑戦 ・嵐吹く 三室の山の もみぢ葉は 龍田の川の 錦なりけり
・君がため 春の野に出でて 若菜摘む 我が衣手に 雪は降りつつ
・久方の 光のどけき 春の日に 静心なく 花の散るらむ
出演 吉川菜々子 岡村春花 中野茉歩 坂本のより 雲井瑞帆 石井希実 新田小夏 門家由采 村上美羽 菊原麻里奈 原田光流 田口寧々 清河鈴羽
木村はな 菊原麻衣花 稲益夢子 田中文菜 平岡愛理 梁河茜 板垣祐三子 石井麻子 向井華奈子 かじのり子 菊本千永 金沢景子 寺井美津子

梅・幻想 1 雪 2 月 3 風 4 梅

破れた世界で 向井華奈子

今、この世界はいろいろな問題であふれています。一方では紛争、移民…また一方、身近にも大小の様々な問題が、日々どこかで波のように絶えず打ち寄せてきているように思います。先日、お稽古場で先生方とインターネットの弊害についての話が出ました。便利のように思えるものも、どこかに穴があって危険と隣り合わせだという話でした。本当に生きづらい世界になったのだと…ふと、私たちは穴だらけ破れただらけの容器の中にぎゅうぎゅうと押し込められて生きているのではないか…という思いに駆られることがあります。その中で何か希望のような掴めるようでも掴めないもの、掴めないようでも掴めるものを一生懸命追いかけているのではないかと。

土を破る 寺井美津子

春になると、季節の話題としてタケノコ掘りが必ず取り上げられます。どうしてわかるのかと思われるほんの少しの地面の割れ目を見つけて掘ると現れるふっくらとしたタケノコ。これって、竹の根？芽？茎？ 竹の根は、もの凄いい勢いで、地面を這い回り、重なり合っています。小さいときに、地震の時は竹藪に逃げろと聞いたことがありますが、今は、検索すると、竹の根の進入をどうやって防ぐかという項目ばかり。地下茎の節ごとに根と芽が出るそうですが、このうち3~4年たった芽がタケノコになるそうです。随分長い時間をかけ、地面を這い回り、天を目指していく。若手4人のダンサーが這い回り、ぶつかりながら、それぞれの天を目指して、大きなエネルギーを生み出します。

うまれたことのない風 金沢景子

太陽と空気がある限り風は吹く。それらはいつ誕生したのだろう。そんなことを考えていたら、全てはいつうまれたのかもわからない。うまれたことがないなら、なくなることもないのではなからうか。無風の時ふと思った。

白き畝下に 稲益夢子(高3) 菊原麻衣花(高2)

凍りつく土の中、命は芽生え。

それでも、帰ります 菊本千永

警報出ていますよ。 電車で動いていませんよ。 道つながっていませんよ。 もう家はありませんよ。 誰も待っていないかもしれせんよ。・・・それでも、帰ります。

地～昇・聴・感～ 平岡愛理 田中文菜

昇る、地上へ。 聴こえる、地下から。 感じる、地上と地下の境界、地を…。

カミサマナンテイナイ かじのり子

カミサマはイルと思っているのに、自分や身の周り、世界でも辛い出来事が起こる度、やっぱりイナイのではと思ってしまいます。それでも、私には、人間というものは何度も立ち上がり、カミサマを探し続けているように思えます。

百人一首への挑戦

・嵐吹く 三室の山の もみぢ葉は 龍田の川の 錦なりけり

葉は一度自分の木から旅立つと、もう元に戻ることはできません。その寂しさの殻を破って川の流れに流されながら自由な身で旅をする、もみぢ葉の美しさを表現します。

菊原麻里奈(中2)

みんなでおどりをつくれたのが楽しかったです。音合わせの時楽しかった！衣装のタイツは、おどり終わったとき気持ち悪いです。絆が深まりました。

雲井瑞帆(中1)

私は、百人一首の踊りをつくってみて、前につくった時よりもレベルが上がったものになったと思いました。自分たちで工夫しきれいにできるようにがんばりました。私より上の学年の人とおどったので難しい所もありましたが、そこでできるようになったものもあるのが良かったです。

坂本のより(小6)

水曜日の作品の「舞い落ちる桜の花びら」と区別してこの作品の「舞い落ちるもみぢ」を表現することが難しかったです。音のつかい方や手の動かし方などで、桜の花びらとは違う、もみぢのかたさを表現できるといいなと思います。

渡邊菜子(中2)

・君がため 春の野に出でて 若菜摘む 我が衣手に 雪は降りつつ

はじめて役や題材から考えました。自分の選んだ百人一首でみんなと最初からおどりを考えていくのはとても楽しかったです。けど、役やおどりがなかなかおもしろくなくて大変でした。はじめよりおもしろいおどりができました。本番が楽しみです。 門家由采(中1)

私は今回二作品で踊ります。「沈黙を破って」では、大人の先生方と一緒に踊るのでとてもきんちょうしました。ジュニアで踊るのは、自分たちで振り付けを考えて、テーマが百人一首なので、とても悩みました。本番はきんちょうするので、ゆっくり、落ち着いて踊りたいです。 新田小夏(中1)

今回私が踊るのは「君がため 春の野に出でて 若菜摘む 我が衣手に 雪は降りつつ」という有名な句です。何役をしよう、というところで私たちは時間をとりました。雪、鳥、草…私たちが選んだのは鳥でした。鳥の中でもたくさん種類があります。そこでつまずいてしまいました。先生方が出してくださったいろいろな案の中から、強くかっこいい“たか”の役をすることに決めました。一人ずつが少しの踊りを考え、間の踊りは先生の提案を取り入れながら、一連の動きを完成させました。音楽に合わせて踊ると動きにくい所や、ずっと同じ隊形で面白くないなど。いろいろな問題が出てきます。それも、先生方と相談しつつ、修正していきました。完成した作品は、最初のころと比べられないほどよくなっていると思います。 原田光琉(中2)

・久方の 光のどけき 春の日に 静心なく花の散るらむ

春の優しい光に包まれて、桜の花びらがひらひらと儚げに舞い散る瞬間(とき)を踊りにしました。前回よりも各々が作品への想いを伝えて共有し、踊りをつくりあげることができました。 菊原麻衣花(高2)

私にとって、春は新しいスタートの季節です。しかし、この歌には心せわしく変化してゆくことの悲しみがうたわれています。そんな穏やかで美しい景色の中にある、はかなくて悲しい感情が伝わるように踊ります。 菊原麻里奈(中2)

今回は百人一首への挑戦ということで、少しだけ和風な踊りに見えたらいいなと思いながら創作しました。桜が舞っている様子を表現するために、ふわふわとした手の振り付けを考えるのが楽しかったです。 田口寧々(中3)

ひらひらとやわらかく舞い落ちる桜の花びらをイメージしておどりをつくりました。みんなのそれぞれ個性ある振り付けがうまく組み合わせさせて素敵な作品になったと思うので良かったです。 渡邊菜子(中2)

沈黙を破って 藤田佳代

うわっ華やかな金の糸の絵!ん?向こう側に黒い影。画家はこの絵を描くのにどっから描き始めたのかしら。中央に金の無数の縦直線。四隅に金のかざえきれないうずまきと、金の小さな粒々が全面にある、その金のうしろに不気味な黒い影がみえる。じっとみていると黒い影がじわりと金の壁を破ってこちらに出て来ようとしている。領土問題のことを考えています。先住民という言葉がとても重要な言葉になりそうです。たとえば、イスラエルのパレスチナ人とユダヤ人。日本なら北方領土のロシア人と日本人。どちらが先に住んでいたのか長い歴史の中で考えてみますと2000年前とか70年前とかではどちらが先だと言い切れるものではありません。今日、あるいは今まずお互いにコンニチワと握手していっしょに生きて行こうと言えいいのにと考えています。

福島へ行ってきました

白河文化交流館コミネス開館記念「FUKUSHIMA&KOBE 祈りと希望のコンサート・ダンス」

『梅・幻想』 出演 寺井美津子 金沢景子 菊本千永 かじのり子 向井華奈子 石井麻子 梁河茜 平岡愛理 田中文菜 菊原麻衣花
振付 藤田佳代 金沢景子 菊本千永 かじのり子 向井華奈子

出演者10人と、佳代先生、照明の新田先生、衣装の藤田啓子先生と13人で福島県白河市へ行ってきました。白河市は雪をかぶった那須連峰を遠くに臨むとてもいい所でした。タクシーの運転手さんにかがったところ、地震の揺れによる建物の被害はそう大きくはなかったとのことでした。ラーメンもおそばも、お魚もお米も(新田先生はお酒も)とてもおいしかったですよ。新しくできた、白河文化交流館コミネスはとてもきれいなホールで、スタッフの方々にも本当によくしていただきました。広い大ホールの舞台には、背景に加川広重さんの巨大絵画「飯館村」が。私たちの「梅・幻想」も加川さんの絵を背景に踊ります。「飯館村」には縁側のある日本家屋が描かれています。絵は三分割されていて、中央に描かれるのは原発事故が起きる前までの当たり前の暮らしです。縁側から向こうには田んぼが広がっています。家の中には、急いで遊びに行ったらいいランドセルが置かれていたり、赤ちゃんのかごが置かれていたり、洗濯物が干してあったりします。ご先祖様の写真もかざってあります。ずっと受け継がれてきた暮らし。原発事故がなければ、今でもあったはずの光景です。両サイドは、絵としてはつながった一つの家が描かれているのですが、様相が変わります。除染を終えた放射性物質の入った黒い袋が積み上げられています。雪が積もっていますが、その袋を覆い隠すことはできません。土と人とのつながりが深い飯館村。この場所から、この暮らしから、このすべてのものから離れなければならなかった気持ちは想像を絶するものがあります。雑草の生い茂る庭では満開の梅が咲いていた。という新聞記事を読みました。身につまされました。避難指示が解除になり、戻られる方々も多くおられることと思います。どうか、以前の暮らしが戻りますようにと祈らずにはいられません。

『梅・幻想』の舞台は大成功だったと思います。加川さんの絵は途中ずっと紗幕で見えないようになっていて、最後に飛び出してくるように現れます。この家に。この場所に。それでも、また、梅は咲く。梅は毎年咲き続ける。飯館村に春が来る。今回の舞台では加川さんの絵はありませんが、もう一度、神戸から届くといいなと思います。 菊本千永

東日本大震災で亡くなられた全ての方のご冥福をお祈りします。

3月4日・5日に福島県白河市へ赴き、「FUKUSHIMA&KOBE 祈りと希望のコンサート」へ参加しました。「梅・幻想」に福島や東北の復興の思いを込め踊りました。私たちの出番は5日。4日の講演では加川広重さんの大きな絵画を背景に福島で被災された方々の「かたりつぎ」がありました。お話は7つありましたが、2つ目を聞いたところでもう胸がいっぱいでした。代読したのは俳優の竹下景子さん。ピアノとバイオリン演奏で聴くその朗読は、ひとつひとつの言葉に重みがあり、被災された皆さんの生の声と、その想いと、私たちの想像では計り知れない恐怖があったらうと、全身に鳥肌が立ちました。絵画にも津波の情景が映し出され、体じゅうがゾクゾクとしました。地震、津波、そして原発事故。いまなお13万人の方々が避難生活を余儀なくされています。東日本大震災から今年で丸6年。阪神淡路大震災を経験した私たちの「想い」が少しでも東北の方々に伝わりますように。 梁河茜